

第126回スポーツサイエンス研究会

グローバルCOEプログラム「アクティブ・ライフを創出するスポーツ科学」

日時 2013年7月8日(月) 16:00より

場所 早稲田大学 所沢キャンパス 100号館5F 第一会議室

演題 スーパーオキシドディスムターゼによる骨格筋萎縮予防

奥津 光晴 先生
(早稲田大学スポーツ科学学術院 助教)

心疾患や癌、糖尿病などの慢性疾患や加齢は、骨格筋の萎縮と運動機能の低下を引き起こす。この原因として悪液質(カヘキシー)の増加にともなう酸化ストレスや炎症性サイトカインの増加が知られている。骨格筋の萎縮は、単なる筋量の減少という形態学的変化のみならず、筋肉の代謝機能や筋力低下による活動範囲の制限が生活の質を低下させることから、骨格筋萎縮の分子メカニズムを解明し筋萎縮の予防に応用することは重要な課題である。骨格筋萎縮の予防および抑制について酸化ストレスの軽減に着目し検討した研究は国内外で数多く報告されているが、酸化ストレスを効率的に軽減する方法はいまだ確立されていない。本研究会では、骨格筋萎縮の分子メカニズムについて、骨格筋のスーパーオキシドディスムターゼ(superoxide dismutase: SOD)の発現に着目し、骨格筋萎縮の効率的な予防方法の確立と骨格筋萎縮予防における運動の重要性について紹介する。



早稲田大学 スポーツ科学学術院
Faculty of Sport Sciences, Waseda University

世話人: 正木宏明・紙上敬太
早稲田大学 スポーツ科学学術院
E-mail: k-kamijo@aoni.waseda.jp